

Vol. 61
2025 WINTER

ISSN MAG

[繋ぐ]

広げる Special Issue:

相手を尊ぶところを表す 立体的で華美な「加賀水引」

深める KPPグループ創立100周年を祝う
記念祝賀会を開催

先どる 小さな声に耳を傾け開発した
心地よく使える「mahoraノート」

相手を尊ぶところを表す 立体的で華やかな「加賀水引」

結納や結婚式などのお祝い事、あるいは不祝儀など、人生の節目に触れる「水引」。近年では、冠婚葬祭などのかしこまった場だけでなく日常でも目にする機会が増え、和装にも洋装にも合うアクセサリーとして、また空間を彩るインテリア装飾としてなど、魅せるアートとしても注目を浴びています。津田水引折型は、石川県の希少伝統工芸に指定されている加賀水引唯一の工房です。加賀百万石の雅が息づく「加賀水引」の魅力について、5代目津田六佑ろくすけさんの言葉を交えてご紹介します。

広げる P01

相手を尊ぶところを表す
立体的で華やかな「加賀水引」

先どる P07

小さな声に耳を傾け開発した
心地良く使える「mahoraノート」

拓く P09

「Afan KPPの森」が誕生／
紙コップの再製品化を実現

伝える P11

謙虚な人柄が垣間見える
志ある脚本家からの手紙

深める P13

KPPグループ創立100周年を祝う
記念祝賀会を開催

訪ねる P15

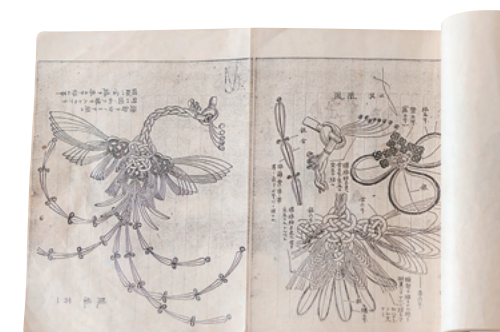
新たなコミュニケーションを生み出す
注目のブックカフェにフォーカス

作る 付録

2025年の幸運を呼び込む
へびのペーパーフィギュア



1.結婚披露宴などに用いられる豪華絢爛な「酒樽飾り」。 2.津田水引折型で販売している祝儀袋。かたちやデザインに合わせた筆耕サービスも。 3.2代目・津田 梅さんによる水引細工で制作された具足（甲冑・鎧）。 4.加賀水引の初代・津田左右吉さんが約100年前に制作した雛人形（内裏雛）。1924年に昭和天皇に内裏雛と具足を献上。1926年には幼馴染みの作家・泉 鏡花に内裏雛を贈答した。



初代・津田左右吉さんが創作した加賀水引図案集。贈答品を立体に包む手法や、水引の立体的な編み方などが手書きで残されている。

日本文化は「察しの文化」とも言われます。自分の感情を謙虚な姿勢で間接的に表現する「水引」は、日本人が大切にしてきた気品と美意識、繊細さが生み出した趣ある文化といえます。

水引は、細長く切った紙を縫った紙縫りに水糊を引いて乾かし固めたもの。紙の代わりに絹糸を巻いたものや、色つきの紙縫りにラメ糸の入ったフィルムが巻かれたものなど、色や材質、光沢や巻き方の違いを組み合わせた何百もの種類があります。その歴史は古く、飛鳥時代を起源とする説や室町時代の日明貿易をはじめとする説など諸説あります。「聖徳太子の時代、隋に派遣された小野妹子が持ち帰った品物に紅白の紐が結び付けられていたのがはじまり」という説があります。

「水引」は、相手を敬う気持ちを大切にすると、贈答品の包み紙などに付ける紅白や黒白などの飾り紐をイメージされる方が多い。それも間違いではないのですが、水引折型の基本は、白い和紙で「包む」、水引で「結ぶ」、贈る人の気持ちや名前を「書く」というこの3つが揃うことではじめて成立するものです。

相手を思う気持ちを直接言葉で伝えるのではなく、包みの造形や水引細工、色や結びの使い方、毛筆の文字を組み合わせることで間接的に思いを感じてもらうもの。水引は日本人ならではの奥ゆかしさや、さりげない気遣いを表現するためのラッピングスタイルなんです。

加賀水引は、言葉の代わりに美しく包むことで思いを表現するラッピングスタイル。「気持ちを伝える」という本質を大切に、人と人のつながりを生み続けていきたい。



加賀水引
津田水引折型
5代目 津田六佑さん
Rokusuke Tsuda

その紐は、日中交易で海賊や海難から身を守る魔除けの意味や、中身がすり替えられていない未開封である証として、また日本と中国の友好関係が長く続くように願う意味が込められていたなど、さまざまな説があります」と津田さん。その贈答品に紐をかける慣習が、小笠原流礼法によって高貴な階級の格式あるマナーとなり、明治後期になつて津田水引折型の初代・左右吉さんは、小笠原流を学んだのち1915年頃に結納業をはじめました。しかし、結納や祝儀袋の複雑な折型をきつちりと折り畳むのはかなり難しかったので、試行錯誤の末にふつらとしたままであえて折り目を付けず水引で引き結ぶことに。技術的な粗が目立たず、ボリュームのある華やかなフォルムを完成させました。また、それに合わせる水引細工も、



1



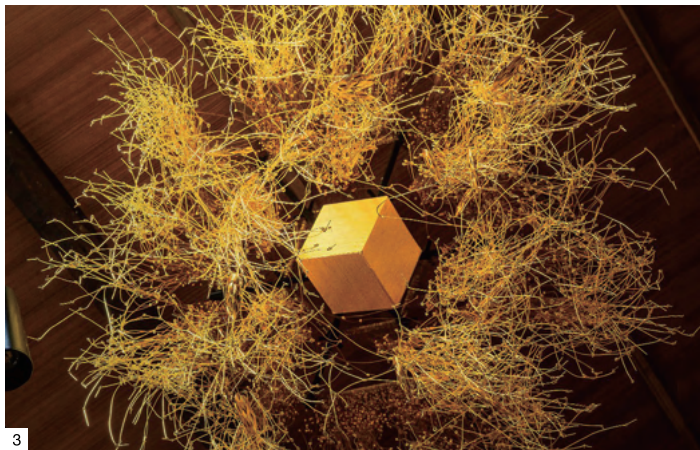
2



1



1

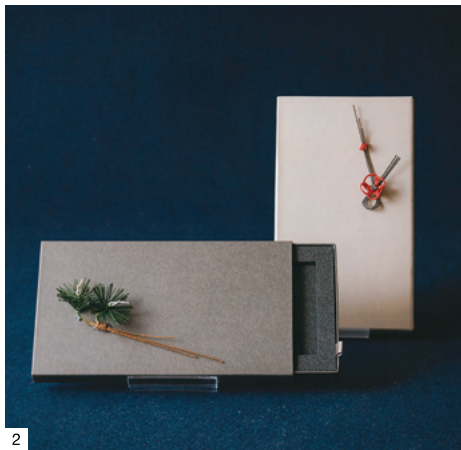


3



4

1.黒で統一した工芸品群「#000 ブラック工芸」。 2.津田六佑さんと美術家・林 智子さん共作によるインスタレーション作品。 3.金沢市内にある宿泊施設のインテリアとして展示されている、津田六佑さんの水引作品。 4.津田水引折型が空間装飾を手掛けた、加賀水引をテーマにしたコラボカフェの店内。「OMO5金沢片町 by 星野リゾート」1Fに夜限定でオープンする。



2



3



4

1.水引アクセサリブランド「knot(ノット)」。アクセサリ類のほかにも、テーブルウェア、ウェディングアイテムも取り揃える。 2.「おれを贈るラッピング」として考案した祝儀袋「wrap(ラップ)」。

3.和装、洋装どちらにも合う「水引コサージュ」。 4.水引を編み込んで制作した2025年の干支「巳」。

INFORMATION

加賀水引 津田水引折型

住所 : 石川県金沢市野町1-1-36
TEL : 076-214-6363
営業時間 : (平日)10:00～18:00 (土曜)10:00～12:00
定休日 : 日曜日・祝日
水引体験教室の予約・問合せは、2営業日前まで。
ホームページ : <https://mizuhiki.jp/>



EVENT INFO

出展イベント

「knot(ノット)」 「#000 ブラック工芸」を中心に出展予定。

①「金沢・加賀・能登展」
会期：1/11(土)～17(金)
会場：阪急うめだ本店 9F

②「楽しい伝統工芸」
会期：2/25(火)～3/3(月)
会場：そごう横浜店 6 F

③「Kyoto Crafts Exhibition DIALOGUE」
会期：3/12(水)～15(土)
会場：ホテル カンラ 京都

贈る人の気持ちや相手に伝えるという本質は残しつつ、現代のコミュニケーションツールとして開発した商品はほかにも。不要な機能を削ぎ落とした祝儀袋ブランド「wrap(ラップ)」や、加賀獅子頭、加賀てまりなど金沢の伝統工芸品のフォルムの美しさを引き立てるために黒・彩色したブランド「#000 ブラック工芸」

じゃないかと。見た目の良さで買ってくれるお客さまが多いんですけど、その場で本質やストーリーを解説するよりも興味を持った人があとで調べてくれた方がより深く知っていただけだと思うので」。

加賀水引を唯一継承している津田家に生まれた津田六佑さんは、大学卒業後、家業を継ぐことなくインターネット関連企業に就職。約10年にわたってウェブの企画構成やデザイン、プログラミング、ネットショップなどの仕事に従事してきたそうです。家業を継ぐきっかけになったのは、2015年に東京と金沢をつなぐ北陸新幹線が開業したこと。「これから金沢を訪れる人が増えるし、伝

また、才知にすぐれた初代・津田左右吉さんは、自ら考案した図案集を持つて、生水引の産地である長野県飯田市などを訪問。図案にしたアイデアを伝授する代わりに、新しい色の生水引を生産してほしいとお願

「。全国に広く知られるようになりました」。

基本となる「あわじ結び」を応用して、鶴、亀、松竹梅の吉祥を立体的に表現するなど独自のスタイルを確立していきました。流儀を聞かれた本人は「無茶苦茶流と申し候」と語ったそうですが、小笠原流の基本を土台として華やかにアレンジした新しい作風は一般に広く受け入れられ、皇室献上など数々の栄誉を受けたそうです。二代目になると、『希少伝統工芸加賀水引細工』として定着し、

水引が持つ本来の目的や意味を本質的にとらえた津田さんは、伝統的な水引製作と並行して時代のニーズに合った新しいプロダクトの開発に着手。水引細工の技術に応用したイヤリングやネックレス、髪飾りなどのアクセサリブランドを立ち上げました。ブランド名の「knot(ノット)」は、「結び目」という意味だけでなく、否定語「no」の意味を重ねたネーミングにすることで、水引の本質から外れていることを表しているそうです。「このアクセサリをきっかけにして水引の素晴らしさや本来の意味を知りきっかけになればいい

「。全国に広く知られるようになりました」。

同じ贈り物でも、相手を感じる気持ちが格段に高まる加賀水引。大切な方への贈答品にぜひどうぞ。

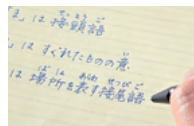
■「mahoraノート」の特長

カラー

光の反射によるまぶしさを抑えた「レモン」「ラベンダー」「ミント」の全3色。

罫線

太い線と細い線が交互に印刷された「太細交互横罫」と、等間隔であみかけを施した「あみかけ横罫」の2種類に。

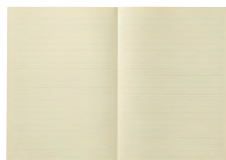


太細交互横罫

あみかけ横罫

製本

使いやすさと耐久性を兼ね備えた、開きの良い無線とじ製本。



PICK UP!

廃棄されるお米を再利用した「サステナブルパッド」

流通や加工、備蓄の過程などで食べられなくなって捨てられてしまう米を使った紙素材「kome-kami」を使用したノートパッド。米ならではのやわらかい風合いとしなやかな弾力があり、なめらかな書き心地を楽しめます。「循環型社会の在り方について多くの方に関心を持ってもらうきっかけづくりになれば嬉しいです」(大栗佳代子さん)。

●B6サイズ／デザイン4種類＋無地



まほらゆったりつかう学習帳

「mahoraノート」の特長をそのままに、罫線のデザインに工夫を施した小学生向けの学習帳。十字リーダー(十字に入っている点線)が気になってうまく字が書けないという子どものためにマスの中心に小さな点を印字。罫線に意識を取られることなく、のびのびゆったりと文字を書くことができます。



小学生向け



大栗紙工株式会社

住所 : 大阪府大阪市生野区巽北3-15-7
TEL : 06-6752-0856
MAIL : oguno@og-shiko.co.jp
コーポレートサイト : <https://og-shiko.co.jp/>
ブランドサイト : <https://www.oguno.jp/>

OGUNOブランド商品は、BASEまたはAmazonの公式オンラインショップまたは全国販売店にてご購入いただけます。



取り扱い店舗



公式オンラインショップ

INFORMATION

小さな声に耳を傾け開発した誰もが心地よく使えるノート

「白い紙は反射がまぶしくて文字が書きにくい」「書いているうちに行が変わってしまっていて、どこに書いているのかわからなくなる」。発達障がいを抱える方の悩みに耳を傾け、機能面、デザイン面ともにこだわり抜いて開発されたのが、この「mahora(まほら)ノート」です。高品質な製造技術と細やかなやさしさを掛け合わせたノートは、年々ファンを拡大し続けています。商品開発に込められた思いについて、大栗紙工株式会社の大栗佳代子取締役役にお話をうかがいました。

——「mahoraノート」を開発するきっかけは何ですか？

私があるセミナーを受講した際、講師の方から「発達障がいを抱えている人が市販のノートは使いにくいと言っているから一度話を聞いてあげてほしい」と相談されました。その方は、発達障がいの当事者の支援団体を応援している方で、彼の仲介を受けて一般社団法人UnBalance(アンバランス)の代表の方とお会いすることに。そこで、みなさんが「使いにくいけど我慢して使っている」という話にショックを受け、ノートをつくる会社の人間として何とか力になりたいと思ったのが商品を開発するきっかけでした。

——商品化までにどのようなご苦労がありましたか？

当社はそれまで、大手文具メーカー様から発注を受け、仕様書に沿ってノートを製造するだけだったので、商品開発は未経験。何からはじめれば良いのかもわからなかったのが、まずはUnBalanceさんのネットワークを通して発達障がい当事者の方々のご要望を拾いあげることから進めることにしました。困っていることやご要望を基に試作品を作成し、実際に使っていただいた感想やご意見を受けて改良することを繰り返して、企画のスタートから約8カ月後の2020年2月によりやく「mahoraノート」を完成することができました。

——使用している「紙」の選定基準を教えてください。

発達障がいを持つ方々から「白い紙だとまぶしくてノートがとれない」という意見をいただき、まずは13色の国産色上質紙を用意しました。文字の読みやすさを考慮した淡いカラーの候補から、「眩しく感じない」「目が疲れにくい」「あったらいいなと思う色」など自由な基準で色を選んでいただき、「レモン」と「ラベンダー」の2色を採用。1年後に「ミント」を追加しました。中紙は、通常のノートより10%ほど厚く、書き心地が滑らかなものを選定。筆圧が強い方でも裏面に響きにくく、消しゴムで消した時も紙がぐちゃぐちゃになりにくいものを選びました。また、表紙にはやわらかな手触りが心地よい、パッケージなどに使用する紙を採用しています。製本にもこだわり、「糸綴じだと糸の端が気になって遊んでしまう」「リング式だと手に当たるのが嫌」といった意見を反映し、開きの良い無線とじ製本で仕上げています。

紙の“先端”にフォーカス
「EDGE of PAPER」

先どる

開け、ノートの未来。OGUNO

おおぐりしこうかぶしがいいしや○1930年の創業以来、ノートを中心とした紙製品の製造を軸に事業を展開。OEMを含め、年間約2千万冊のノートを製造する。2020年に自社ブランド「OGUNO」を設立。ユーザーの困りごとを解決する、アイデアの詰まったプロダクトが話題を集める。



大栗紙工株式会社

——デザイン面でこだわったポイントはありますか？

ひとつは、表紙、本文(中紙)ともにシンプルなデザインにすること。ノート上にあるすべての情報が気になってしまい負担になっているという意見があり、余分なデザインはすべて省くことにしました。また、「途中で書いているところを見失ってしまう」という悩みを解消するために、「太細交互横罫」と「あみかけ横罫」という独自の罫線を考案。行を識別しやすくなる工夫を施しています。

——現在、販売されている商品ラインナップを教えてください。

手のひらやポケットに収まるものが欲しいといったご要望を受け、サイズはセミB5判／B6判／A6判／B7判の計4種類を展開。それぞれに「レモン」「ラベンダー」「ミント」の3色、「太細交互横罫」「あみかけ横罫」の罫線パターンがあり、全24種類のラインナップをご用意しています。また、ファイリングにも便利なA4サイズのシートタイプ「mahoraシート」(全12種類)もあります。

——商品名の「mahora」とはどのような意味ですか？

「mahora=まほら」とは、「住みやすい場所」「すぐれたよい所、国」を意味する「まほろば」の元となった大和言葉です。私たちがつくるノートが多くの人に心地よく使っていただけるものであってほしいという願いを込めて、「mahoraノート」と名付けました。

——購入者からはどのような感想が寄せられていますか？

発達障がいの方に多くご愛用いただいておりますが、「はじめてノートを取れるようになった」「白い紙だったからノートが使えないことにはじめて気が付いた」「きれいに書けるから読み返せる」など喜びの声をいただいております。また、視覚過敏の方でなくても「目が疲れにくく書きやすい」とリピートしてくれるお客さまも増えています。

——今後の展開を教えてください。

ご要望の多い、無地の「mahoraノート」(全3色)の発売に向けた準備を進めています。私たちの製品のコンセプトは「ひとを想うノートづくり」。これからもユーザーの視点に立ったものづくりを続けることで、社会に貢献していきたいと思っています。

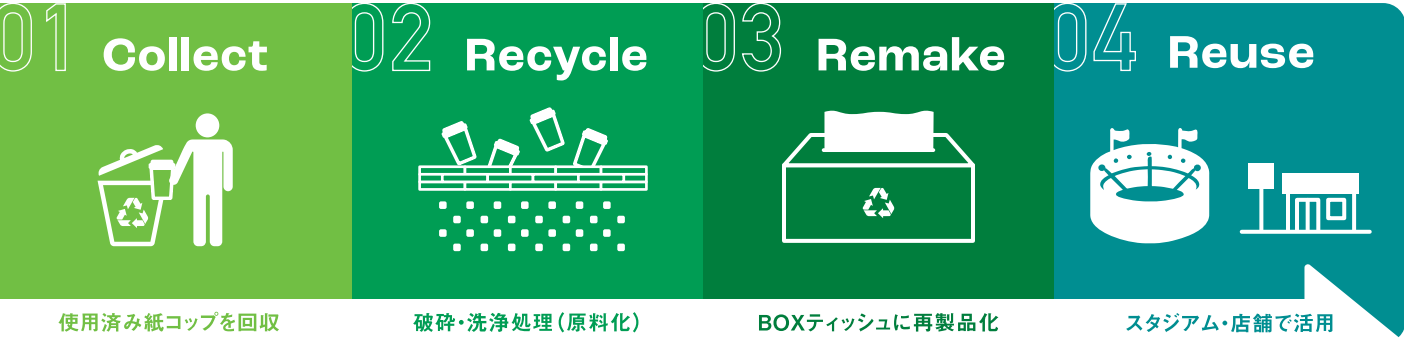
正田醤油スタジアム群馬で使用された紙コップの
マテリアルリサイクルに取り組んでいます

KPPグループの国際紙パルプ商事（以下、当社）は、群馬県前橋市に所在する正田醤油スタジアム群馬で使用された紙コップをBOXティッシュの箱にマテリアルリサイクルする取り組みを進めています。正田醤油スタジアム群馬は、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）3部に所属するザスパ群馬がホームスタジアムとして利用しています。当社は2022年よりザスパ群馬と協業し、同スタジアムで使用された紙コップの回収や再資源化の取り組みを実施・推進してきました。昨年夏よりこの取り組みをさらに発展させ、再資源化の先にある商品化まで実現しています。

使用済み紙コップは従来、耐水性を持たせるためにプラスチック加工されており、さらに飲み残しによる食品残渣が付着していることから、古紙回収に出すことができない禁忌品とされ、産業廃棄物として処理されていました。今回の取り組みでは、スタジアムで使用した紙コップを分別・回収し、洗浄。紙コップの繊維をパルプに戻して再資源化したうえで「BOXティッシュの箱」として再生、再製品化することに成功しました。

BOXティッシュは現在、ザスパ群馬のオンラインショップや実店舗にて販売中です。お近くにお越しの際はぜひお手にとってみてください。

■マテリアルリサイクルの流れ



■本件に関するお問い合わせ

国際紙パルプ商事株式会社 出版直需営業本部
直需2部 直需第3課

TEL: 03-3542-2504 (受付:月～金/9:00～17:00)
MAIL: kpp_DirectSalesSec3@kpp-gr.com



【取扱店】

- ・GCCザスパーク1F ザスパ群馬オフィシャルショップ
- ・ザスパ群馬ホームゲーム グッズブース
- ・ザスパ群馬オンラインショップ「ザスパストア」
- ・カインズスーパーセンター 前橋吉岡店



持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介します

KPP Sustainable Times

限りある資源やエネルギーを循環・再生させることは、現代社会において極めて重要な課題となっています。当社グループの使命である「循環型社会の実現に貢献する」に基づき、事業を通してサステナブルな社会づくりに貢献し、企業価値の向上を図っています。

100年先の未来を見据えた森林創成をめざす
「Afan KPPの森」が誕生



左より、C.W.ニコル・アファンの森財団専務理事 野口理佐子氏、国際紙パルプ商事社長 栗原 正、KPPグループホールディングス会長 田辺 円、同社社長 坂田保之、同財団理事長 森田いづみ氏

当社は、一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団とアファンの森 南エリアの一部を「Afan KPPの森」とする森づくり協定を締結し、2024年10月7日に長野県信濃町にて調印式を執行了しました。アファンの森財団と協業して荒廃した放置林（南エリア）の再生に取り組むことで、森の復元とともに生物多様性調査や環境教育の場として活用していきます。なお、本契約は、長野県が立会人として、県が推進する森林の里親制度に位置づけられています。

アファンの森は、財団創設者である故C.W.ニコル氏が私財を投じて放置山林を購入し、自らの手で荒廃した森を再生させる壮大なプロジェクトとして1986年にスタートしました。長年にわたって生物多様性の回復をめざした活動が続けられており、アファンの森 北エリアでは、環境省・長野県に指定されている動植物の絶滅危惧種のうち65種（2022年現在）が確認され、生物多様性豊かな森づくりに貢献しています。同エリアは、環境省が推奨する「ネイチャーポジティブ」実現に向けた取り組みを実践しており、国が生物多様性の保全区域を認定する「自然共生サイト」に登録されています。当社は、2015年よりオフィシャルスポンサーとしてこの活動の支援を続けています。



このたび調印した「Afan KPPの森」には、南エリア約18ヘクタールのうち3.54ヘクタールが割り当てられています。このエリアでは、長野県絶滅危惧IA類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの）のエビネ（ラン科）をはじめとする希少種が確認されており、当社が2022年より参画している「生物多様性のための30by30アライアンス」の取り組みにつながっています。

当社は今後とも同財団との協働を通じて、100年先の未来へ向けた森林創成に取り組んでいきます。



絶滅の危機に瀕している種として、長野県版レッドリストで絶滅危惧IA類に記載されている「エビネ」

「手紙」は語る

植村 鞆音

人間は表現する動物だというが、手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第三十九回 山田 太一

山田太一さんが亡くなったのが令和五年十二月二十九日。はやいもので一年以上が過ぎた。山田さんが亡くなつてしばらくして小さな経済誌に「山田さんのこと」というエッセイを書いた。その折段ボールに散在していた山田さんからの手紙を整理して改めて読み直してみた。山田さんからの手紙は全部で十六通あった。山田さんと私のつき合いはそれほど密といえない。私がテレビ東京の編成局長を担当していた平成四年から系列の番組制作会社の社長を辞めてしばらくするまでのほぼ二十年間のつき合いである。いま振り返ると短かったような気がするが十年ひと昔、その倍になるのだからそう短いともいえない。

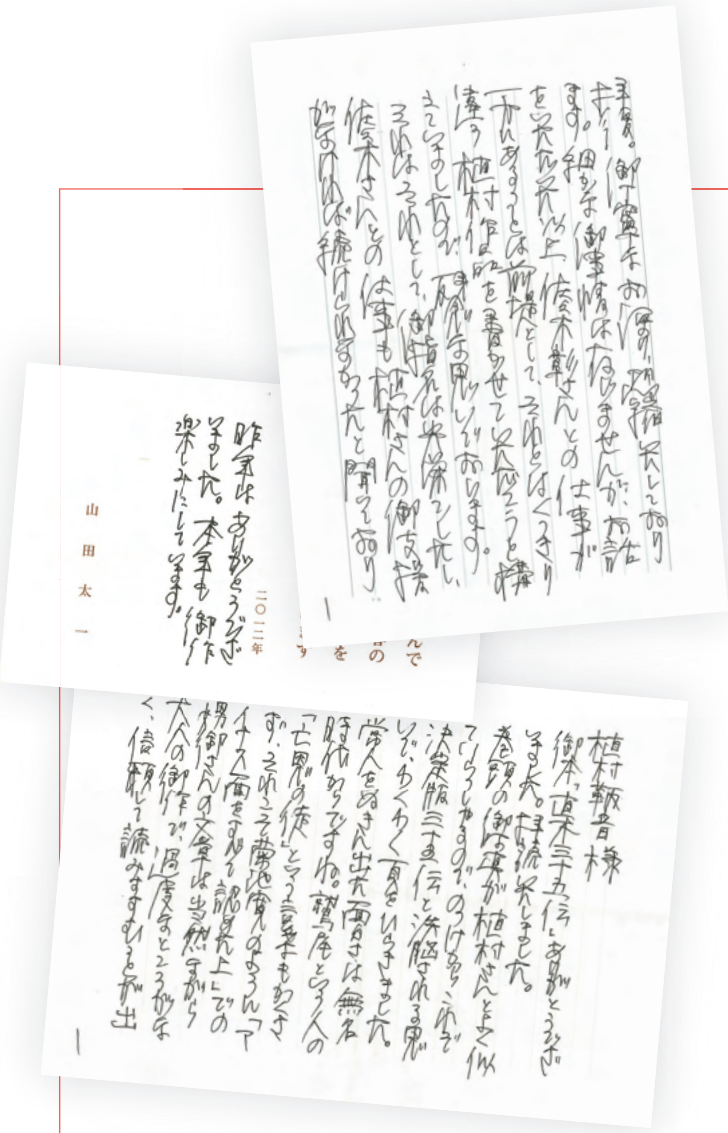
十六通の手紙の内訳は、葉書が十三通、封書が三通である。十三通の葉書の内訳は五通が年賀状。五通とも「つしんで 初春の およろこびを 申しあげます」という同じ文面にそれぞれ添え書きがある。私がフリーのプロデューサーの高倉三郎さんと局プロデューサーの佐々木 彰から山田さんを紹介してもらったのは平成四年だが、その三年後の平成七年の開局記念日に山田さんのオリジナルドラマ『せつない春』が放送された。仕事と家庭の間でゆれ動く五十代男性・山崎 努の日常を描いて、日本民間放送連盟賞ほか数々の受賞に輝いた。山田太一、高倉三郎、佐々木 彰のトリオは、以後二十年の間に五本のドラマを制作し世に送り出し、高評価を得て、数々の受賞にも輝いた。テレビ東京にも『大江戸捜査網』『ブレイガル』『ハレンチ学園』など、人気ドラマな

ることは表現すること」を実践してみたいと思つたのである。さい先は悪くなかつた。

最初の著作、伯父・直木三十五の評伝『直木三十五伝』は、尾崎秀樹記念大衆文学研究賞を受け、第二作の父の評伝『歴史の教師 植村清二』は日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した。私の筆の力というより、直木という少し変わった小説家を伯父に持てたこと、生涯純でらい落な教師だった父と半生を伴にできたこと、それを表現する機会に恵まれたことにすべてはつきる。調子者の私は受賞のたびに東京会館で出版記念会を開催したりしたが、いま思ひだすと恥ずかしい。『直木三十五伝』の出版記念会には山田さんの出席をお願いしたが、十六通の葉書の中には「欠席」に○をつけた山田さんの葉書が入っている。「都合があり、伺えませんが、御本の成功を喜んでおります」とある。あとで知つたのだが、山田さんは、よほどの関係がない限り出版記念会には出席しないと決めていたらしい。その代わり、出席を強制されることのない発起人には「喜んで発起人に加えていただきます」という連絡をいただいた。

私は、ほとんどの自著を、出版されるたびご自宅に送らせていただいた。毎回、丁寧な読後感が届いた。

「御本『直木三十五伝』ありがとうございます。拝読いたしました。巻頭の御写真が植村さんとよく似ていらつしやるので、のっけからこれぞ決定版三十五伝と洗脳される思いで、わくわく頁をひらきました。常人をぬき出した面白さは無名時代からですね。



どあることはあつたが、普通の人間の日常を描いたスタジオドラマはほとんどなく、山田ドラマは局のイメージアップに大いに貢献した。クリエイティブには、作り手の志が必須である。最近志を感じさせる番組が少ないのは嘆かわしいことだと思う。

私は平成十一年にテレビ東京を辞め、関連の番組制作会社の社長を数年勤めたが、ひとつだけ悔いが残る。それは、系列のテレビ大阪で岸 恵子さん主演の山田太一ドラマを制作しようと準備を進めていたものが、出過ぎたことをするなという本社意向でボツつてしまったことである。山田さんの三通の封書のうち二通はそのことに触れている。

「拝復。御丁寧なお便り、恐縮いたしております。細かな御事情は存じませんが、お話をいただいた以上、佐々木 彰さんとの仕事が一方にあることは前提として、それとはくつきり違う植村作品を書かせていただく構えていましたので、残念な思ひでおります。それはそれとして、御指名は光栄でしたし、佐々木さんとの仕事も植村さんの御支援がなければ続けられなかったと聞いておりますし、お人柄に接したことは、ありがたく嬉しいことでした。決して無駄な時間ではありませんでした(後略)」。

私は、六十五歳でサラリーマンを辞め、第二の人生に執筆業を選んだ。「生き

驚尾という人の『忘恩の徒』という言葉もかくさず、それこそ菊池寛のように『マ イナス面をすべて認めた上』での甥御さんの文章は当然ながら大人の御作で、過度なところがなく、信頼して読みすすむことが出来ました(後略)」。

私の著作で唯一自慢できるのは父を描いた『歴史の教師 植村清二』で、当然山田さんには送つたはずだが、手紙の中にはこのことに触れたものは見当たらない。最後に送つた著作は城山三郎さんの評伝『気骨の人 城山三郎』だったが、山田さんは、お手紙にこう書いてくださっている。「(前略)これはもう植村さんの城山さんの思ひが全頁に満ちていて、死後このように語る人がいる城山さんの幸せとお人柄に感銘がありました」と。

山田さんと私の最後の仕事は、民放連(日本民間放送連盟)の機関誌『月刊民放』の連載座談「放送の未来に向けて」だった。この記事は同誌に平成二十二年三月から隔月で二年間続いた。番組論の必要を感じた私が西野編集長に提案し、ドラマの大山勝美、バラエティの澤田隆治と私が、歴代のテレビ番組について語り合つたオール・ヒストリー(口伝)である。その十二回分に、初めてのゲストとして山田さんを迎えた。トークは歴代ドラマで人気の高い『岸辺のアルバム』(家族の崩壊を描いた山田太一作品)を中心に弾んだ。座談の中で山田さんはたしかテレビからケータイの時代の到来を予測されていた。終わつて私がお礼の手紙を送つたらしい。「畏れ多いお葉書いただいたただ恐縮しております。植村さんのリードにうまく応じられなかったなあと帰り道で自分の力不足を改めて感じておりました(後略)」。どこまでも志を感じさせる謙虚で誠実な山田太一さんだった。



著者略歴

うえむら とみお

植村 鞆音 エッセイスト

小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師 植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の岬』『気骨の人 城山三郎』など。



山田 太一

脚本家、小説家

1934-2023

写真：毎日新聞社/アフロ

1934年6月6日生まれ、東京市浅草区(現・東京都台東区)出身。早稲田大学卒業後、松竹大船撮影所入社。演出部で木下恵介監督の助監督を経て1965年に独立。以後、脚本家として、『男たちの旅路』『岸辺のアルバム』『ふぞろいの林檎たち』など数々の名作テレビドラマを手がける。また小説家としても活躍し、『異人たちとの夏』で山本周五郎賞受賞。脚本を手掛けた映画『少年時代』で日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞するなど、受賞歴も多数。本名は石坂太一。2023年11月29日に老衰のため死去。享年89歳。

02 社員・OB会員向け記念パーティー

2024年11月30日(土) 会場:品川プリンスホテル

2024年11月30日(土)、品川プリンスホテル アネックスタワー5階のプリンスホールにて、社員・OB会員向けの祝賀パーティーを開催しました。グループ会社であるスパイサース、アンタリスの両CEOによる事業説明会のほか、各種表彰式、クイズ大会などで大いに盛り上がり、ビュッフェ形式の料理を堪能しながら記念すべき一日を祝いました。

Speakers



スパイサースCEO
デイビッド・マーティン

アンタリスCEO
エルベ・ボンサン



「KPPグループアワード」表彰式

創立100周年を記念し、KPPグループ全体から優れた活動内容を募集した「KPPグループアワード」の表彰式を行いました。



「リラックマ×スポGOMI」表彰式

創立100周年を記念して開催した「リラックマ×スポGOMI」大会の結果発表ならびに表彰式を行いました。同大会はKPP社員とその家族のチーム、取引先様チーム、各地域にお住まいの一般参加チームが参加しましたが、本パーティーではKPP社員と家族チームの中から全6大会の合計ポイント数の上位3チームを表彰し、社長の栗原より賞状が授与されました。



KPPグループクイズ大会

当社にまつわるクイズ大会のほか、世界中のKPPグループ社員から寄せられたカウントダウン写真の上映などで盛り上がりました。



TSUNAGUに関する問題も出題!



ブランドムービー上映

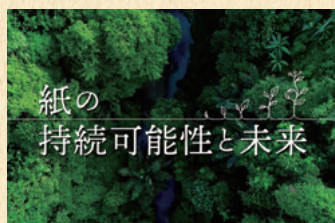
「紙の持続可能性と未来」をテーマとしたブランドムービーを上映しました。同動画のほか、100年の歩みをまとめたヒストリームービーを一般公開しています。当社グループの歴史や未来へつなぐ価値観をぜひチェックしてみてください。



ブランドムービー



ヒストリームービー



編集後記

梱包という言葉からイメージが湧くのは、通販で買った段ボール。そんな方も多いのではないかと思います。大切なのは箱の中身なので、届いたらびりびりと破いて捨ててしまう。そういった利便的な使い方が日常であるとして、その反対の使い方、特別なときの贈り物は、何を纏っているのだろうと考えたとき、その答えは「気配」なのではないかと思いました。贈り物の持つ気配、またそれをあらわす要素。

水引は「包む・結ぶ・書く」のすべてが揃った状態で成立するそうです。どれか一つでも欠けたら本質からは外れてしまう。想いを包み、結び目に心を込め、理由や名前を書く――その細やかな心遣いには、現代の私たちが大切にしたい、日本人の美意識が息づいているのではないのでしょうか。

代表の津田さんはインタビューの終わりに「水引を伝統工芸だから手に取るのではなくて、きれいだと思ったものが伝統工芸だったというのでも十分だ」と仰っていました。本誌も紙を入り口としていますが、皆さまが最初に見る「表紙」をとっても大切にしています。近年はさまざまな場所に置いていただいています。それが紙のアートだと分からなくても、綺麗だと思つて手に取ってもらえたらそれは紙との出会いとして本望ともいえるだろうと、帰り道に津田さんの言葉がふと浮かび、本誌の在り方と重ね合わせていました。

TSUNAGUは皆さまの紙ものへの興味や、つくしと思う気持ちを涵養できる、そんな冊でありたいです。

(加藤智香)



KPPグループ創立100周年を祝う記念パーティーを開催

2024年11月27日に創立100周年を迎えたことを記念して、祝賀パーティーを行いました。今回はその模様についてレポートします。



創立100周年記念パーティー

2024年11月27日(水) 会場:帝国ホテル東京

創立100周年記念日にあたる2024年11月27日(水)、帝国ホテル東京・孔雀の間にて来賓やお取引先様約700名の方々を国内外よりお招きして記念パーティーを開催しました。

エントランスには、当社の事業や循環型ビジネスモデルを紹介するパネルを展示。また、前月号(第60号)の本コーナーでご紹介しました100周年記念 和紙漉き体験ワークショップにて京橋築地小学校3年生や、中央区在住の子どもたち、社員とその家族が制作したランプシェードを設置し、温かな光をお客様をお迎えしました。

記念パーティーは、会長 兼 CEOの田辺が主催者として

挨拶を行った後、来賓の経済産業省 製造産業局 素材産業課長の土屋 博史様、王子ホールディングス株式会社 代表取締役社長 磯野 裕之様より祝辞をいただきました。続いて来賓の方々、社友、取締役の11名がステージに登壇。「よいしょ!」の掛け声で鏡開きを行い、会場に活気が溢れました。その後、日本製紙連合会 会長、日本製紙株式会社 代表取締役社長の野沢 徹様に乾杯のご発声をいただき、懇親会がスタート。関係者の皆さまと交流を深める有意義な時間を送り、社長 兼COOの坂田の閉宴の挨拶をもって、盛況のうちに幕を閉じました。



パーティー会場の様子



各スピーチに盛大な拍手をいただきました



エントランスに展示された事業紹介パネル



手漉き和紙で制作したランプシェード



弦楽四重奏による演奏



さらなる飛躍を祈願して行われた鏡開き

Speakers



KPPグループホールディングス株式会社
代表取締役会長 兼 CEO 田辺 円



経済産業省 製造産業局
素材産業課長 土屋 博史 様



王子ホールディングス株式会社
代表取締役社長 磯野 裕之 様



日本製紙連合会 会長
日本製紙株式会社 代表取締役社長
野沢 徹 様



KPPグループホールディングス株式会社
代表取締役社長 兼 COO 坂田 保之



国際紙ハルバ商事株式会社
代表取締役 社長執行役員 栗原 正



Books&Cafe ドレッドノート

東京都江東区平野2-3-21

TEL : 03-5809-9008

営業時間: 11:00~20:00(ラストオーダー19:30)

定休日 : 月曜・火曜

※イベント開催等により、店休日、営業時間が変更となります。
詳細はHP等にてご確認ください。

<https://www.dreadnought-2019.com/>



現代の国際情勢を見つめ直す貴重な歴史書籍がそろうブックカフェ

江戸時代後期の下町情緒と東京都現代美術館をはじめとするアートギャラリーが展開する先進的なデザインが調和する街・清澄白河。また、東京でも有数のカフェ激戦区として多くのコーヒーファンで賑わうこの街で異色を放っているのが「Books&Cafe ドレッドノート」です。「自分好みの本が並ぶ、使い勝手の良いブックカフェをつくりたかったんです」。そう話すのは店主の鈴木宏典さん。トラッドな雰囲気の店内には、長年をかけて収集した歴史と国際政治に関する専門書が並んでいます。「近現代史や軍事・戦争史を中心とした新刊や古書を扱っていますが、なかには日本で

はここにしかない希少本も。書籍以外にも、古今東西の艦船模型なども展示・販売しています」。そのほか、店内に飾られているイギリス国王・ジョージ5世の戴冠記念観艦式(1911年)を描いた絵画(レプリカ)は世界的に希少価値が高く、これを目当てに多くの専門家や軍事ファンが来店するそうです。

また、店内にはウクライナ支援を呼びかける募金箱も設置されています。「旧ソ連は第二次世界大戦で世界最多の死者を出しました。ロシアは誰よりも戦争の痛みを知っているはずなのに同じことを繰り返してしまった。両国に友人がいることもあって胸を痛めています」と

鈴木さん。第二次世界大戦終結以来の記録的な数の紛争や危機に直面している今、世界で起こっていることについて改めて見つめ直すことができる空間です。



フードメニューはすべて自店のキッチンで調理。ポーランドのクレープ「ナレシニキ」(写真)は、少し厚めの生地にラズベリーの爽やかな酸味がアクセントになった人気メニュー。



輸送マイレージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

発行: グループ人事部 グループコーポレート・コミュニケーション室
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4166 (代)

<https://www.kpp-gr.com/>

TSUNAGU公式Instagram
ID: kpp.tsunagu

ぜひフォローを
お願いいたします!